

令和 2 年度 総合的な相談支援体制（つながる場）開催状況について

※つながる場開催 6 件（12 件中）

< 世帯類型 >

母子世帯
2 事例8050世帯
3 事例高齢・
障がい世帯
1 事例

< 課題 >

複合課題

高齢者と
子どもの
長年の確執

支援が困難

主となる支援
機関がない

地域から孤立

< 支援の方向性 >

半数以上で障がい者基幹
相談支援センターの参画
を依頼し、新たな支援機
関に繋ぐ高齢者領域と障がい者領
域の連携のために、つな
がる場を活用する支援拒否傾向のある支援
対象者には、積極的なア
ウトリーチが必要地域関係者の会議への参
加、又は会議内容の
フィードバックと見守り< 具体的事例 > 障がい者手帳を所持している高齢者世帯。介入の必要がある
も、支援につながらない。

生活状況

- ・本人（60代）と同居人（60代）共に療育手帳を所持の2人世帯。
- ・日記の文章を代筆、悩みを聞いて欲しい等社会福祉協議会や図書館に長時間滞在。断ると癇癪を起こす。
- ・住宅で禁止されている犬を室内で飼っており、規則違反や近隣トラブルになっている。
- ・自分の身体や物に触って欲しくないと掃除や入浴を拒否。

支援方針・役割分担

- ・自由に活動ができる本人の居場所として、地域活動支援センターの利用を勧める。
- ・本人の行動から強迫性障がいなどの疑いも見られるため、本人の様子をみながら医療機関へつなぐ。
- ・支援者が過去の成育歴を把握、本人の困りごとから解決していく視点を共有

支援後の状況

< 地域活動支援センター（生活支援型） >

障がい者基幹相談支援センターの協力により、本人と同居人がセンターを見学。通いの場として定着している。

< あんしんさぼーとの申請 >

じっくりと話をすると理解ができ、R3.5月末あんしんさぼーとを開始

< R3年7月 >

日中の居場所は確保され、社会福祉協議会等への長時間滞在は減少した。しかし、禁止されているペット問題について近隣からの苦情は継続しており、退去に追い込まれている。つながった支援者の体制が今後も維持できるように、包括支援センター主催の地域ケア会議で再度支援者が集まり、転居支援等に向け話し合いを行っている。